



発行所 友雄印刷所 加治木町役場 元坂町114番地 電話 114

顔ふれも一變して 議會の新陣容なる

五月二十日開催の 第六回臨時議會で

加治木町臨時第六回町議 原土地改良區設立準備費 補助に關するもの、西別 府大字共有林立木寄附採 納條件變更に關するもの 等の三案が、第一の永 長ならびに各常任委員會 委員長及び副委員長等の 改選が行われたが、その ほか、十指に及ぶる議 案陳情等を日程にのせた 議案としては加治木町 議會常任委員會及び 特別委員會條例の一 部を改正する條例が 上程され原案通り可決さ れた

- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎
- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎
- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎

- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎
- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎
- 委員 中村四郎 寺師秀雄 立山銀次郎 林山太郎 新太郎

このたび改選の結果、國 物と、衷心厚くお禮申上 げます。 戦い終つて茲に八年にな りますが、この間、われ われ國民の勞苦は、一通 り私に副議長に選出され たこと、この間、われわれ 國民の勞苦は、一通り私 に副議長に選出されたこと、

御あいさつ

議長就任に當つて 宮内 虎雄

副議長

犬童 傳

臨時第三回 町議會の報告

報告第一号 ルース災害 分として處理していたの 振興地元負担金融資に 對する損失補償について

本件はさき振興地元負担 金に對する損失補償に對し て、農林中央金庫からの 融資損失補償額として、 一千五百萬圓の議決を経 ていたものを、その後融 資額を更に二百五十萬圓 に増額され、これが損失 補償の増額を町長専決處

小西を経て小宮路に通じ 邊川幹線道路に連絡する 路線の新設及び邊川外圍 の既設木橋の架換等につ いて、且つ小山田石野 部落代表からは邊川區字 田原北端から石野に通 ずる道路新設、及び石野 から東木に至る道路を町 道に編入し改修された、 道に編入し改修された、 道に編入し改修された、

算獲得に關する陳情 始良郡校長協會から、(イ) 學校の經常予算確保(ロ)六 三建築促進(ハ)教職員研 修負担金及び校長會の負 担金予算の措置(ニ)教職員 の住宅確保等について實 現を願いたいという陳情 文、教育委員會審査での 通過、財政の許す範囲で 安當でないとして採擇し ないこと決定

附近住民の要望もあり、 衛生施設として必要であ るから、厚生委員が個 人的に業者間の斡旋に努 めることとなつた(終

のたが御承知の 通り、幸に全國民 國の並なまらぬ指導と援 助により、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、

のたが御承知の 通り、幸に全國民 國の並なまらぬ指導と援 助により、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、

のたが御承知の 通り、幸に全國民 國の並なまらぬ指導と援 助により、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、

のたが御承知の 通り、幸に全國民 國の並なまらぬ指導と援 助により、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、

美坂大迫立山三氏 縣消防協會で表彰

鹿兒島縣消防協會では、一團、竿頭二團、功績 月三十日縣下市町村消防 團長の表彰式、本年度總會 を表彰状五團、功績章一〇 開催した、この日は午前 十一時から縣下消防三〇 團員(五十五名)の慰靈(二 〇年以上)三、八、現場功 祭が厳肅に行われ、(昨 年中十一月十一日深夜 中食の、一時から總 會に入つたが、その席上 國家消防本部表彰二、日 本消防協會表彰一表彰旗 表彰状、出水町消防團三

森林組合 第二回通常總會

加治木町森林組合の第二 地區組合員四十四名の受 回通常總會は、五月十三 日午後一時から郷土館日 本間で開かれた

この問題については組合 員も理事者もひとしく 認めて、近く入金される ため、近々組合員による 西別府區有林賣却による 六十九萬五千円をもち、 何等か具体的事業計 画を發表する旨、理事者 側から解答があつた

邊川の新區長さん 山口重志氏に決定

邊川區の區長さんが變り ましたのが、山口重志氏 として、苦勞を重ねてこられ た鹿島章さんが、こんど 區長をお辞めになつたの で、新任山口重志 さんが、就任し山口重志 さんが、今年五十二才 農業共済組合の理事をし ていられます

六月町民税 第一期分

七月 町民税 第二期分 毎月二十五日まで

町民税 第二期分 毎月二十五日まで

のたが御承知の 通り、幸に全國民 國の並なまらぬ指導と援 助により、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、ついに、二ヶ年前、皆 建の大業を着々と進捗さ せ、

さあ、田植えです

増収の第一歩は？ 苗床の水の掛引から

田植えが近づく頃は、気が、その他の日はなるべ
温が日増しに高まり、雨く水は浅くした方がよい
は多く、而も農家は苗の二寸位伸びてからは、い
手も借りた位、急がしつゝ苗床の溝だけに水を
い、従つて苗代管理はつ張つて、床面は時々灌水
の点だけは是非心がけてやるべきです。

Ⅰ苗代管理
苗代の管理で一番軽く
取扱われているのは、水
の掛引きのようだが、健
苗育成のためには、まず
ここから出發して貰わね
ばならない。

播種後数日は水を張つて
おろし、発芽しはじめた
晴天の日に、二三日間
水を落して床面をぼす、
根種の發根を促すため
ある、之を芽干しとい
が、芽干しは夜干しとい
もい、大体は晝間や
つた方がいい。

それから、苗の幼内は
風雨の強いとき、低温の
日などは深くしてもいい
その方法は

Ⅱ苗代の病害虫

イモチ病と白葉枯病
本年は残らず種子消毒を
やつた筈だから、この被
害は少ないと思つたが、常
發地では銅製劑又はス
ブルンなど撒布するとい
ツマゴロココバイ
萎縮病(ツブシ)を媒介
する恐ろしい害虫である
越冬した保毒虫が、病毒
を稲に移す前に、早く驅
除することが大切である
その方法は

放流された若鮎

大事にそだてましょう 今後の対策立ましよう

前号でお知らせしておい
た若あゆの放流は、五月
十八日、小濱課長や末永
主事の手で、予定通り邊
川の精米所下の川で行わ
れました。

鮎は昔から、その姿がや
さしいのと、獨特の香味
をもつていて、この川で
川魚の中の女王として珍
重されています。

このあゆは、普通三月か
ら五月の間に、海から川
へ上り、川で成長して十
月下旬、海にかえつてそ
の生涯の幕を閉じるとい
われています。

成長は極めて良好で、春
二寸位のものが、十一月
初めには五六寸、目方に

(4) T E P P (テツプ) 劑	引上げる事が出来る、
(3) 〇〇〇ー二〇〇〇	昨年町主催の水稲及び陸
(2) パラチオン劑	稲の増収競争成績の主
D D T 乳劑(四〇〇倍)	なものに参考にあけて
散布	る
水稲	
1 末永秋男 三石六斗五升	
2 江口岩太郎 三石八斗二合	
3 白尾親志 三石二斗	
4 坂口秀志 三石二斗	
5 小宮路啓蔵 三石二斗	
6 中村誠輔 三石二斗	
7 犬童武雄 三石二斗	
8 犬童テヲ 三石二斗	
9 吉村清視 三石二斗	
10 緒方吉行 三石二斗	
農業改良事務所	

守りなましよう 夏の衛生五訓

必要な社会施設 待たれる上水道

毎年春さきから夏にかけてい
は、病気がはやります
一昨年は赤痢が、とても
はやつて縣下でも有名に
なつてしまいました。が、
昨年はみなさんの努力で
そう大したことはな
らなりました。それ
に併せて、赤痢菌を
二十名からのが出てお
ります。

それで加治木町の場合は
一昨年より昨年、成績
がよくなつています。か
ら、全体としては
増加していると言えま
す。

二、食前には手を
洗いなましよう

三、生水生物やめ
ましなましよう

四、過勞ねびえ、
氣をつけましなま
しよう

五、のみすぎ、
けましなましよう

一、はえをとしま
しなましよう

二、食前には手を
洗いなましよう

三、生水生物やめ
ましなましよう

四、過勞ねびえ、
氣をつけましなま
しよう

五、のみすぎ、
けましなましよう

錦江義會

黙々と盡す四十七年 先人の社会性を思う

錦江義會は明
治四十年一月、
加治木町がまだ
村であつた頃、
新納時亮氏が
十銭で大体十口位ま
和八年基金で西別府の山
地(八町)を買ひ、昭和
二十三年町教育施設費と
して之を町に寄附し、一
十七年に六十八万で立木



スキは 變つて行く

二、後継起犁の利便
今後取換えましなま
しよう

三、食前には手を
洗いなましよう

四、過勞ねびえ、
氣をつけましなま
しよう

五、のみすぎ、
けましなましよう

文之和尙慰靈祭

文之和尙慰靈祭、町
公民館安國寺分館開館式
が加治木町及び町教育委
員會共催で、五月二十四
日午後二時から安國寺で
盛大に開かれた。

文之和尙の遺徳を顕彰
すると共に安國寺が町の
社會教育の場としての發
足を祝し、これに功勞の
あつた故宮内盛直氏、伊
東惠應師、長谷場唯二翁
故宇都宮虎二氏、故原田
耕夫氏、故是枝快房氏、
故美坂銀次郎氏、故濱田
精助氏、故川相遠治氏、
故新納時亮氏の十氏にそ
れぞれ感謝状と記念品を
贈つた。その功をねぎらつ
たのである。

文之和尙は僧衣を纏う
た儒者であり政治家であ
つて、日本の文化史上に
大きな貢獻があつた、そ
の墓は國家の指定により
保存されている。

今から三十九年前日向の
福島に生れ、十三才の正
月「歳旦の詩」を書いた
その名作に世人は驚ろき
京都相國寺の仁如和尙は
文之和尙の稱をばへた、そ
して京都で學ぶこと十餘年
鳥津義弘は儒學を學ぶた
この和尙を、國分の正興

野菜市場の開設

「次はじやがいの！」
「六〇！」
「七〇！」
「七五！」
これは五月二十五日か
ら開かれた加治木町中須
の、加治木町野菜市場で
のせり撃です。

私は開かれて一週間目
の六月二日のせり状況を
て来ました。

持込みは、野菜果物花類
などの生産者なら、誰で
も持込みます。

せりは、ただいまのところ
青果業者のうち、申込
みをしている二十二名の
方だけですが、物によつ
ては、又、日によつては
市價と同じ値でせりねが
きまつてしまつて、元氣の
面白味があつて、元氣の
いいところを見て来まし
た。

「見物のお立會い衆」や
せりに来た業者の人々の
話しをきいていきます。

縣政關係 ラヂオ放送 農家のしおり

- 一、五月 指導連
- 二、六月 改良課
- 三、七月 漁政課
- 四、八月 漁政課
- 五、九月 漁政課
- 六、十月 漁政課
- 七、十一月 漁政課
- 八、十二月 漁政課
- 九、一月 漁政課
- 十、二月 漁政課
- 十一、三月 漁政課
- 十二、四月 漁政課
- 十三、五月 漁政課
- 十四、六月 漁政課
- 十五、七月 漁政課
- 十六、八月 漁政課
- 十七、九月 漁政課
- 十八、十月 漁政課
- 十九、十一月 漁政課
- 二十、十二月 漁政課

早起鳥

- 一、五月 漁政課
- 二、六月 漁政課
- 三、七月 漁政課
- 四、八月 漁政課
- 五、九月 漁政課
- 六、十月 漁政課
- 七、十一月 漁政課
- 八、十二月 漁政課
- 九、一月 漁政課
- 十、二月 漁政課
- 十一、三月 漁政課
- 十二、四月 漁政課
- 十三、五月 漁政課
- 十四、六月 漁政課
- 十五、七月 漁政課
- 十六、八月 漁政課
- 十七、九月 漁政課
- 十八、十月 漁政課
- 十九、十一月 漁政課
- 二十、十二月 漁政課